

## 9 次世代産業の推進について

(財務省、経済産業省、文部科学省、環境省)

### 【内容】

- (1) 燃料電池自動車（FCV）や燃料電池フォークリフトの普及を促進するため、当該車両の購入に対する補助などの支援制度を継続すること。また、水素ステーションやフォークリフト充填用水素供給設備の整備を促進するため、規制の見直しの着実な実施や、整備・運営コストの負担を軽減するための支援制度の拡充を図るとともに、水素エネルギー社会構築に向けた関連技術の開発及び実証を推進すること。
- (2) 当地において開発・生産が進められる次世代環境航空機について、政府及び関係機関への導入や、トップセールスの実施により、普及拡大を支援すること。併せて、航空機製造の需要増加に対応するため、航空機製造技術者の育成を促進するとともに、産業拡大のボトルネックとなることが懸念される特殊工程検査員の育成体制整備を国の責任において推進すること。
- (3) ロボット産業の集積を促進するため、研究開発・実証評価に対して支援を行うとともに、無人飛行ロボットや自動走行技術等の円滑な普及を促進するため、規制緩和を早急に進めること。また、当地のロボット産業を世界に発信するため、「World Robot Summit」（ワールドロボットサミット）を本県で開催すること。
- (4) 付加価値の高いモノづくり技術の研究開発拠点である「知の拠点あいち」のさらなる研究基盤強化に向け、「先端研究基盤共用促進事業」により、引き続き支援を行うこと。

### (背景)

- FCVの生産には、愛知県のモノづくり技術が活用され、基幹産業である自動車産業の持続的な発展に寄与することが期待される。本県では、「愛知県水素ステーション整備・配置計画」及び「あいち産業労働ビジョン2016-2020」において、FCVの普及及び水素ステーションの整備に関する目標値を設定し、これらの普及・整備を促進するため、国・県・市町村及び民間企業が一体となって取り組むこととしている。
- B787型機の増産、MRJ及びB777X型機の量産開始などにより、航空機製造の需要増加が見込まれる一方で、航空機製造技術者の技能・技量に係る資格制度が存在せず、人材育成は民間企業の社内教育に頼る状態である。現在、経済産業省を中心とした産学官連携協議会において、製造技術者の技能・技量の認定制度創設に向けた検討が進められている。
- 航空機製造においては、表面処理等の「特殊工程」があり、当該工程で

の品質検査を行うためには、欧米基準の検査員資格が必要である。資格取得のためには、所定の座学と長時間の実務経験を積んだ上で認定試験を受けなければならないが、現在、国内で認定試験を受験できず、訓練機関も存在しないため、検査員の育成・確保が大きな課題となっている。

- 本県では、世界に誇れるロボット産業拠点の形成を目指し、平成26年11月に「あいちロボット産業クラスター推進協議会」を設立した。本協議会では、ロボットの開発側と利用側の双方が参画する3つのワーキンググループ（「製造・物流等」、「医療・介護等」、「無人飛行」）を立ち上げ、開発や実用化、普及に関する具体的な取組を進めている。
- 平成27年8月、国立長寿医療研究センター内に、「あいちサービスロボット実用化支援センター」を開設し、医療や介護をはじめとするサービス分野のロボットの实用化や普及の支援を行っている。
- 政府は、平成27年1月に、ロボットによる新たな産業革命の実現に向けた「ロボット新戦略」を策定した。ロボットに関わる規制改革（電波法、航空法、医薬品医療機器等法 等）や国際的なロボット競技大会である「World Robot Summit」（ワールドロボットサミット）\*の開催等、5カ年計画のアクションプランを示している。  
※10月に開催地が公募され、平成28年内に結果が公表される予定。
- 「知の拠点あいち」は、FCVや次世代航空機の部材開発等を支援する最先端研究開発拠点であり、多くの中堅・中小企業にも利用されている。平成28年度は「知の拠点あいち」の「あいちシンクロトロン光センター」において、新たに1本のビームラインの整備を進めている。これまで以上に利用促進が重要となることから、「先端研究基盤共用促進事業」による支援の延長が必要である。

（ 参 考 ）

◇ FCV普及、水素ステーション整備の目標

- 【FCV普及目標台数】  
2025年度 累計台数 20万台達成
- 【水素ステーションの整備目標数】  
2020年度末 40基  
2025年度末 100基程度



とよたエコフルタウン水素ステーション

◇ FCフォークリフト

今秋、株式会社豊田自動織機から日本初となる2.5ト積み燃料電池フォークリフトが発売開始。希望小売価格1,400万円（税別）

◇ 県内で生産に関わる航空機の受注残及び生産予定

	受注残	2016	2017	2018	2019	2020
B777	457	8.3機/月	777-X 生産開始	.....▶	.....▶	.....▶
B787	694	12機/月	.....▶	.....▶	14機/月	.....▶
MRJ	447	(量産)	(量産)	量産初号機納入	.....▶	.....▶

※受注残には、オプション契約及び基本合意を含み、数値等は各社の公表に基づく（平成28年9月現在）

◇ あいちサービスロボット実用化支援センターの概要

- 【開設場所】 国立長寿医療研究センター内
- 【開設時期】 平成27年8月17日
- 【取組内容】
  - ①モノづくり企業に対するサポート
    - ・医療・介護施設、大学・研究機関、企業等の紹介
    - ・開発や実用化に関する技術的な相談対応
    - ・開発品の普及促進に関する相談対応 等
  - ②サービスロボットの展示
    - ・県内で開発されているサービスロボットの实演展示